

地域のスキマを埋めようと、たくさんのチャレンジャーが飛騨地域で活動しています。

目の前で困っている人を助ける活動、将来のための環境づくりをする活動、多様化する価値観を表現する活動。そしてこれからも、多くのチャレンジャーが課題解決に動き出すでしょう。

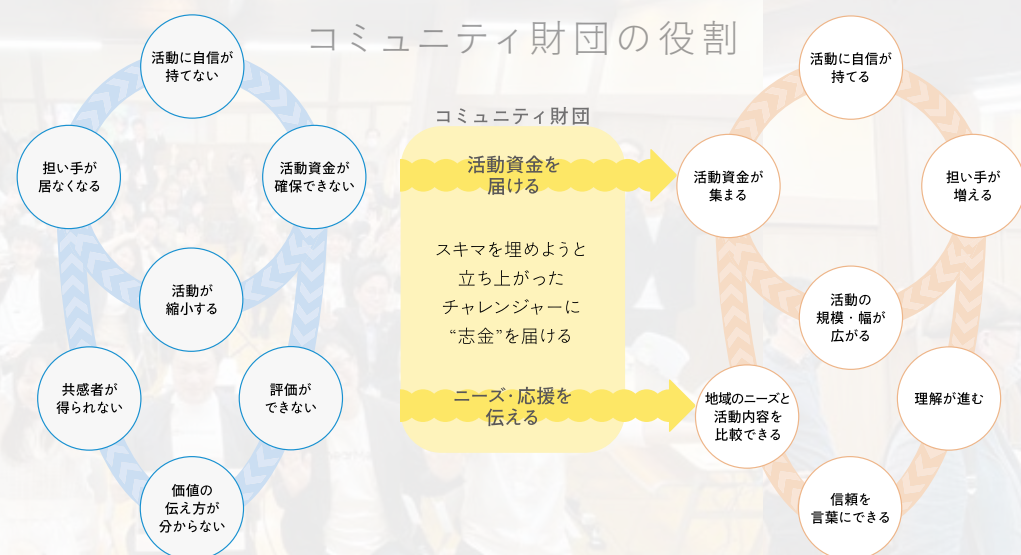
しかし、チャレンジャーたちには過酷な現実が待ち受けています。みんなのためにと始めた活動でも、活動資金の確保もままならず、場合によっては自己資金を持ち出しながら、熱意と努力でなんとか活動が続けていることがほとんどです。

どんなに信念を持って活動を始めてもそんな現実を前に、資金不足・人材不足によって活動が縮小したり、活動に自信が持てなくなったり、という「負の連鎖」に陥ります。

私たちはそんな現状に一手を打ちます。

課題解決の必要性を示し、飛騨地域内外からチャレンジャーが活動するための資金を募り、「頑張ってるね」「ありがとう」という応援の気持ちでがのった活動資金をチャレンジャーに届け、課題解決の活動を伴走し、そしてチャレンジャーの「ありがとう」「頑張ったよ」という成果もみんなで共有できる「正の循環」の仕組みをつくります。

みんなの課題を自分事として捉え、解決に動き出したチャレンジャーと応援者を繋ぎ、誰もが自信を持って活動できる地域であるための資金循環の仕組みが「コミュニティ財団」です。



05 私たちのスキマの埋め方

上：2022年4月21日 第6回ひだのスキマ研究会 「不登校、その先を考える」
下：2022年5月20日 第7回ひだのスキマ研究会 「スタートアップビッチ in 飛騨高山」

「ただいま」といえる“home”を 100年先まで 守り続けるために



対話や仲間づくりを目的としたイベントを開催。地域で行われる様々な催しをご紹介します。地域の課題(スキマ)ってなんだろう、自分は何に興味があるんだろう、という方におすすめです。

語
ら
い
の
場

新聞やテレビだけでなく、地域紙、フリーペーパー、SNSなどを見たり、周りの人と気になる記事について話すだけでも世界が広がります。気になる事柄を見つけたら、「口に出してみる」が次の一歩です。

情
報
の
泉

興味がある事柄が見つかったら、その分野について更に深く勉強したり、実際にその活動に参加したり、学習・体験の場に出かけてみませんか？

学
び
の
場

行政も民間事業者も未だ手つかずになっているスキマが市民生活へ支障を与えている現状を、なんとかしたいと動き出したチャレンジャーが飛騨地域にもいます。誰に褒められるわけではないけど、自分自身や家族、お世話になった地域の人、そして未来を担う子どもたちのために、自然も文化も暮らしも全てが愛おしい飛騨地域“home”を守るための挑戦をご紹介します。

下呂市のスキマを埋める人々

小さな村が“暮らす”機能を維持するために

一般社団法人 ひがし村

下呂市金山町祖師野224-1
(活動拠点:旧下呂市立東第一小学校)
090-2939-3878 (佐々木)
@east_union2022



一般社団法人ひがし村は、2017年8月に住民が設立した地域づくり法人です。農地の利用調整、農業参入による活動資源の確保、新規就農者支援などを行っています。地元住民と移住者が連携し、これからの地域づくりについて意見を交わしながら、農地や山、廃校を活用した地域活性化に取り組んでいます。



理事
佐々木 克哉

KATSUYA
SASAKI

活動エリアである東地区は、10の自治会で構成されています。各々でやっていた水路の維持管理を地区全体でやるために、2014年に東地区集楽環境保全会(任意団体)を発足しました。そこへこれから増える耕作放棄地を預かれないかと相談があり、法人化したのがはじまりです。耕作放棄地の問題は大きく、管理の手がまわらないため預かれない農地も出てきました。課題は多くありますが、今後も行政や地域内外の人達と連携し、地域内外の人が「楽しんでやっていることが、結果的に地域のためになっている」そんな共助の関係の上に地域活動が成り立つように、農地・山・学校を活用していきます。



旧小学校の一般開放

2020年に廃校になった下呂市立東第一小学校をつかってもらいながら、新たな活用方法について意見交換を実施。

ワーキングホリデー・大学との連携

日本福祉大学の学生が定期的に足を運び住民と交流している他、学生・社会人に向けた「ふるさとワーキングホリデー」を実施し定期的に地域と若者が関わる機会を創出。



農地活用

2016年以降、トマト栽培のために5名が就農。住民から預かった農地を提供するなど、移住・定住・就農の支援を実施。



高山市のスキマを埋める人々

森に育まれた暮らしで、エネルギーと自然を考える

NPO法人 活エネルギー アカデミー

高山市赤保木町297
0577-32-6044
<https://www.enepo-takayama.com/>



2014年高山市主催の自然エネルギーセミナーに参加した市民が中心となり、自然エネルギー活用を具体的に実行すべく同年4月に設立。化石燃料依存から脱却し、地域資源を利用した自然エネルギーへ転換するため、里山の利活用を市や地域と連携して行なっています。また、子ども達に学びの場を提供するなど将来を担う人づくりにも取り組んでいます。

HIDETOSHI
SAWA

事務局／建築家
澤 秀俊



日本一面積の大きい高山市はその92%を山林が占めています。このような豊富な森林資源があるにも関わらず、人口8.4万人の小さな自治体ながら灯油購入のために毎年24億円を使用しているという現実がありました。また、間伐施業で搬出される木材は地元でうまく活用されず、地産の木工品や建築材料には外国産材が多く使われていました。このような非効率な流れを変えようと、間伐材の定期物流システムと地域通貨Enepoの発行運営による地域内循環を構築し、実践しています。少人数で始めた活動も今では200人以上が関わり、また都会から大学生が作業に手伝いにくるなど関係人口も徐々に広がっていて嬉しい限りです！皆さんもぜひ活動に参加しませんか？



木の駅プロジェクト

間伐した木材を高山市内13ヶ所の木の駅にて集材する物量システム「積まマイカー」により効率よく集材できる。地域通貨を組み入れた地産地消の循環経済モデルを形成。

飛騨高山間伐通貨 Enepo

飛騨地域の間伐作業などの森林保全活動を通して生まれる地域通貨で、高山市内の協賛店103店舗で使用できる。また、電子通貨さるぼコインに交換も可能。



高山間伐材キエーロ

「キエーロ」は黒土のバクテリアの働きで生ゴミを消す生ゴミ処理装置。高山市の環境政策課と協働して進めており、補助金を活用すれば半額にて購入可能。

飛騨市のスキマを埋める人々

“Edo”cation is Adventure.



株式会社 Edo

飛騨市古川町金森町10-25
080-1895-9133(副代表直通)
<https://educationdo.com/>



学校や行政、企業と連携した地方部の教育課題を解決するプロジェクトマネジメント業務、中学校・高等学校向け探究学習プログラムの提供、企業や行政向けにSDGsを活用した未来を構想するワークショップの提供などを行っています。また2023年6月からは中高生向けの探究特化型スクールを開校する予定です。



代表取締役
関口 祐太
YUTA SEKIGUCHI

株式会社Edoは「教育や学びを通じて持続可能な社会を創る」をミッションに掲げて、2019年飛騨古川にて事業をスタートしました。私たちを取り巻く社会環境はこれまでより一層早いスピードで変化をしており、そんな社会で育つ子どもたちの学びを支えるためには、学校だけでなく地域、そして私たちのような民間の事業者が必要だと考え、私たちの立場から飛騨地域、そして全国の教育環境に貢献できることを探し日々チャレンジしています。私自身、飛騨で生まれ育った人間として、この地に恩返しできることに大きな喜びを感じています。課題は新たなチャンス。大人も子どもも挑戦できるまちを寄ってたかって作って行きましょう！



飛騨市学園構想

2019年4月に飛騨市教育委員会主導で立ち上がった地域教育魅力化プロジェクト。人が育つ地域づくりをテーマにマネジメント業務を受託。

SDGs de 未来構想

型を知り、型を破り、未来を描く。SDGsを題材にし、社会課題を解決するための思考の型をワークショップ形式で提供。



Edo new school

自分の興味関心を起点に、「やりたい」を見つけ、実践を積み重ね「やれる」と自信を育む探究スクールを開発しています。2023年の6月開校に向けて準備中。
※本事業は、「飛騨市ふるさと納税活用ソーシャルビジネス支援事業」に採択されました。

白川村のスキマを埋める人々

地域に代わって、自分達ができることを。



一般社団法人 ホワイエ

大野郡白川村大字平瀬132-41
info@foyer-us.com
<https://foyer-us.com>
※2023年1月頃リリース予定



地域に面白い挑戦の場を増やしたい。1人1人が自分の役割を感じながら個性を輝かせて生きられる社会を作りたい。そんな思いで、これからの生き方・働き方をテーマにした学びの場づくりや、魅力あるヒトをフックにした対話の場づくりを行なっています。

Koji SHIBAHARA

代表理事
柴原 孝治



2014年に白川村地域おこし協力隊員に着任し、南部地域の活性化や空き家対策を担当、任期修了後を見据えて協力隊の任期中に一般社団法人ホワイエを立ち上げました。今では研修、イベント企画、ICT活用、求人募集など様々な相談をいただくようになり、その時々で出会ったスタッフの得意な事・できる事を新たな“仕事”としていくことで事業の幅が広がっています。一方で、社会的なことを続けようと思うと、予算を稼ぐための仕事をしなければいけないことが難しいところですね。課題は多くありますが、村民やプログラム参加者、そしてスタッフにとっても「主体的な学び」が続けられる場をこれからも作っていききたいと思います。

ヒト大学



白川郷ヒト大学

特定のキャンパスを持たないソーシャル大学を2017年11月に開校。より良く生きる若者が増え、持続可能な地域の在り方が広がっていく日本の未来に向けて、主体的に人生を切り開いていきたいヒト、大歓迎！

岐阜住学

大学生が地域に住みながら学ぶを目的としたプログラムを展開。

大学連携

管理・運営している世界遺産集落内の合掌造り家屋「旧花植家」で大学のゼミ活動を受入れ。



ICT活用

教育・暮らしに関わるICT支援を実施。現在整備中のスタジオを活用した動画制作・配信活動や、高齢者向けのスマホ教室などのサポートを拡充予定。



移住・定住事業

白川村移住交流窓口業務や、移住体験住宅・シェアハウスの管理受け入れを実施。

人材紹介

職を求める求職者と人を求める求人者のマッチングを白川村を中心に実施。